

2022/3/6

20th AE

第二回オープンセミナー

高橋 玄 先生



Apicomarginal defect

Gen Takahashi DDS

Abstract

1965年 現代歯内療法の礎となったKakehashiによる報告から現在まで、治療環境、テクニック、材料など様々な発展を遂げてきた。その恩恵を受けた一つが、『外科的歯内療法』である。現代の外科的歯内療法の成功率は、約90%程度と報告され、以前のテクニックと比較すると劇的に改善し、患者利益に大きく貢献した。しかしながら、それらの文献の基準で除外されている項目がある。その一つが、今回のテーマである『Apicomarginal defect』である。Apicomarginal defectは、歯根の全長にわたり歯槽骨が存在しないことを特徴とする局所的な骨欠損と定義され、ある後ろ向き研究では、Apicomarginal defectを認める外科的歯内療法の成功率は27%、37%と報告されている。低い成功率だけでなく、報告が少ないため、現代の外科的歯内療法においても一つの課題となっている。そこで今回は、Apicomarginal defectの原因、現代で考えられる対応法など踏まえ、歯内療法の観点から貢献できることに関して考察する。

ご略歴

○2007年 奥羽大学歯学部卒業 ○2015年 Penn Endo Program in Japan修了 ○2016年 PESCJ認定医 ○2017年 愛知県名古屋市 高橋歯科 開設